

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1104 2012年3月号

野生鳥獣との共存に向けた連絡会議開催

～剣山・三嶺地域のシカ対策で関係機関～

徳島・高知両県境の剣山・三嶺地域におけるニホンジカ対策について、関係機関の連絡・調整会議を3月1日に四国森林管理局で開催

【関連記事3頁】





モニター会議

平成二三年度国有林モニター会議を開催

〈企画調整室〉

二月二三日、四国森林管理局において、「平成二三年度国有林モニター会議」を開催しました。国有林野事業の運営等

について理解を深めるとともにモニターの皆様（四国局は二六名）から、幅広い意見や要望等をお聞きし、これを国有林の管理経営に反映をしていくもので

す。

会議では、出席された一三名の国有林モニターの皆様から、モニター活動についての感想や国有林に期待すること等について、意見を頂きました。（主な意見等は次のとおり。）

○ 国有林モニターになるまで山に対して特に関心を持っていなかったが、勉強会に二回参加して、山がただそこにあるわけではなく、沢山の人が働いていることを知った。

○ 今は就職難の時代なので、若い人たちが山に入れて欲しい。管理が行き届いていないからすぐに山が崩れる。ちゃんと管理すれば崩れないので、治山に金を使うより山の管理に予算を使つて欲しい。

○ 局の広報紙はわかりやすいが別の広報紙は内容が堅く難しかった。

○ 今の林業政策は時代に逆行しているのではないかと感じている。人口が減り、木の需要が減っているのだから昔のように広葉樹の山にすればシカの被害や山崩れが減るのではないか。

○ 今の子供は、遊びとて有能ではないか。

○ 単に「木材を利用して欲しい」だけでなく、「外国産材をCO₂を排出しながら使うよりも地域の材を使っていくことが重要」など、何故国産材が良いのか、というところのPRが必要である。

○ 再生可能エネルギーとしてバイオマスは原



平成23年のネット柵内の植生回復状況

野生鳥獣との共存に向けた連絡会議開催

剣山・三嶺地域のシカ対策で関係機関

〈指導普及課〉

近年急激に生息数が増加し、森林や自然植生に被害を及ぼしているニホンジカ（以下「シカ」）の

国支所などの研究者のほ

また、事務局である当

か、両県の自然保護団体

「森の回廊四国をつくる

局から、昨年の本会議で

の代表者などや、徳島・

会」の坂本会長からは、三

提案した徳島、高知以外

高知両県、関係市町村、

嶺周辺の植生等がシカの

の香川、愛媛両県も含め

中国四国地方環境事務所

影響を受けてどのように

た連携の重要性を踏まえ

の担当者ら一九名及び森

変化してきたか、設置し

四国四県の担当者及び森

林管理局、関係森林管理

てきた防護ネット柵の効

林管理局、地方環境事務

署長等が出席し、森林管

果がどうであったか、シ

所、農政局、森林総合研

理局、地方環境事務所、

カの影響が出始めて一〇

研究所の担当者で構成する

両県などから、平成二三

年程度経過したが今後ど

連絡会を設置した旨報告

年度の対策の概要と平成

のように対応していく必

しました。

二四年度の対策案等を報

要があるかについて報告

組の強化のみならず、四

告していただきました。

され、日当たりがいい尾

国全体でのシカ対策の推

「三嶺の森をまもるみんな

根筋等においてはミヤマ

進について、改めて関係

の会」の依光代表から、

クマザサの植生の回復が

者が認識を共有しました。

被害・対策、管理捕獲の

見られるが、森林内にお

現状と課題について、特

いては回復しない箇所が

に徳島側での捕獲作業の

あるとの報告があり、今

聞き取り調査の結果等に

後は林内のギャップに防

た。

護柵を設置し林内で種子

会議に

の発芽・定着・成長を図っ

は、高知大

てはどうかなどの提案が

学、森林総

合研究所四

合研究所四

東日本大震災の仮設住宅建設に貢献

〈農林水産大臣感謝状〉

〈企画調整室・徳島森林管理署〉



農林水産大臣感謝状
(中央が佐々木隆雄代表理事)

二月一三日、四国森林管理局において、「那賀川すぎ共販協同組合」の佐々木隆雄代表理事に、新木局長から、農林水産大臣感謝状

が伝達されました。これは東日本大震災における農林水産省の食料等調達の活動に関して顕著な貢献をした企業又は団体に

対して、その功績を讃え、特に農林水産大臣から感謝状の授与を行ったものです。林野庁関係では、全国から六九の授与対象者が選定されましたが、

四国からは、「那賀川すぎ共販協同組合」が選定されました。「那賀川すぎ共販協同組合」は、『徳島すぎ板倉の家』を販売していますが、建築資材のストックがあり施工が早いことから、東日本大震災の仮設住宅に採用され、建築資材を現地に供給し、福島県いわき市などに二〇〇戸が建設されました。この仮設住宅は、プレハブの仮設住宅と異なりスギの厚板が持っている安心感や暖かみがあるため、入居者から高い評価を得ています。また、仮設住宅としての使用が終わっても、移築すれば本格住宅としても再利用することが可能とのことです。

平成二二年度治山・林道

コンクール受賞者表彰式

〈総務課〉



治山・林道工事コンクール受賞者
(四国森林管理局長賞)

治山・林道工事コンクール受賞者(平成二二年度に施工した工事)の表彰式が二月二四日、四国森林管理局局長室で行われ、次の方々が受賞されました。

(敬称略)

◎四国森林管理局長賞表彰

〔治山部門〕

○株式会社 山全

代表取締役 牛尾 正治

○湯浅建設株式会社

代表取締役 湯浅 雅文

〔林道部門〕

○大字建設株式会社

代表取締役 大字 徹

○多田工業株式会社

代表取締役 多田 裕

また、二月一六日に林野庁において、表彰を受けた方々は次の方々です。

◎林野庁長官賞表彰

〔治山部門〕

○山下産業株式会社

代表取締役 山下 政司

〔林道部門〕

○一若建設株式会社

代表取締役 中畑 健右

森林教室・木工教室開催



〈指導普及課〉

一月二二日、高知市立介良小学校において、森林教室と木工教室及び木を使ったおもちゃ遊びを実施しました。

これは、介良小学校から、親子が参加するイベント「ふれあい参加日・介良の祭り」の体験学習コーナーの一つとして、木工製作の

三二名の親子等が参加しました。

はじめに、「木を使って地球を救う」というDVDを見て、森林の働き等について理解を深めてもらいました。続いて二つのグループに分かれて、「フクロウ鉛筆立て」と「カップカエル貯金箱」を作製しました。

体験させたい遊びです。」といった感想がありました。また、児童からの、来年の森林教室・木工教室の実施要望もありました。

体験活動を通じて森林への理解を深めさせたいと、当局に森林・木工教室の依頼があったものです。

今回のイベントは、児童及び保護者に対して森林の働き及び木の良さ、大切さを学んでもらうものであり、また、国有林野事業のPRの良い機会になりました。

木工教室の様子



当日は、森林・木工教室を含め、二二の体験コーナーが設けられ、森林・木工教室には、

その後、木製の「パズルゲーム」「各種けん玉ゲーム」「木製ゴムてっぽうゲーム」等を行い、親子で楽しい時間を過ごしました。「アンケート」で、「アイデアあふれるゲームは、どれも暖かみがあり、小さい頃から、いっぱい子供達に

